

名古屋市民の皆様へ

あいちトリエンナーレ 2019「表現の不自由展・その後」について

あいちトリエンナーレ実行委員会会長代行である私は、「表現の不自由展・その後」(以下「本件展示」とします。)を8月2日に視察した後、行政の立場を超えた展示が行われているとして、同実行委員会会長である愛知県知事に対し、天皇陛下や慰安婦問題などに関する展示の中止を含めた適切な対応を求める抗議文を提出しました。そして、8月8日には市民の皆様に向けた文書を公開し、抗議の申し入れを行った経緯等をご説明しました。

一方、再三にわたり、本件展示の展示に至るまでの経緯や開幕後の展示中止決定の経緯等について明らかにする機会として、あいちトリエンナーレ実行委員会運営会議を早急に開催し、説明責任を果たすよう、会長である知事に求めるとともに、9月20日に知事の見解を問う公開質問状を提出しました。しかし、実行委員会運営会議は未だに開催されず、公開質問状への十分な回答もありません。

私は、本件展示には、高度な外交問題となりうる強い政治的主張と捉えられうる作品や、多くの人々がころよく思わない可能性のある作品が含まれていることから、全体の奉仕者である行政が主体となって、主に税金で運営され、公的施設の中で実施する事業としてはふさわしくないと考えており、10月8日からの展示再開決定を受け、同日、再度現地を視察しましたが、その思いを一層強くしたところです。

したがって、名古屋市民から付託を受けている本市としては、本件展示の再開について強く反対するとともに、本件展示を支援しないことをここに表明いたします。

なお、本件展示を除くあいちトリエンナーレ 2019 の実施については、同実行委員会会長代行として社会的責任を果たす観点からも、本市は引き続き、協力して取り組んでまいります。

令和元年 10月 11日

名古屋市長・あいちトリエンナーレ実行委員会会長代行

